

基本目標評価調書

基本目標	1 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実
------	--------------------------

■ 施策の概要

5年後の目指す姿	長野県版運動プログラムが、幼稚園・保育所、学校、地域のクラブ等に普及して、運動やスポーツをする元気な子どもが増加しています
施策の展開	1 幼児期からの子どもの体力向上策の推進 2 学校の体育に関する活動の充実 3 子どもを取り巻く社会のスポーツ環境の充実

■ 評価

1 施策の達成状況

(1) 測定指標の進捗状況

進捗状況	指標名	単位	基準値 (H22年度)	H25年度			目標値 (H29年度)	評価		
				目安値	実績値	26			27	28
	体力合計点	点	49.1	49.6	49.3	49.9	50.2	50.6	51点台	努力を要する
	体力合計点の全国順位	位	31	29	29	27	25	22	10位台	順調

(2) 取組の主な成果の状況(25年度実績)

○長野県版運動プログラム普及事業である「キッズ運動遊びどこでもゼミナール」は、幼稚園・保育園の園児や保育士、小学校の児童や教職員、地域の指導者、保護者を対象に、5地区で計10回開催した。幼稚園・保育園、学校、家庭、地域など、生活の中に運動やスポーツを取り入れ習慣化するきっかけとなっている。

○「体づくり運動」実技講習会は、小学校児童を対象に走り方を中心とした内容を10校で、中学校生徒を対象にコアトレーニングを中心とした内容を15校で開催した。各校で作成する「体力向上プラン」の1校1運動等、体力向上に向けた取組を充実させることができた。

○「子どもの体力向上指導者研修(学校体育指導者中央研修)」に県内小中高等学校から8名参加し、研修内容を郡市代表の教員に対して伝達するとともに、各郡市においては、伝達を受けた教員により、指導力向上の研修会を開催した。日々の授業に活かせる内容を伝達することができた。

○小中高等学校体育・スポーツ研究協議会を6会場で開催し、549名の体育主任が参加した。体力向上に係る講演、各校が作成した「体力向上プラン2013」をもとにしたグループ協議等を実施し、体力向上へ向けた取組について情報交換し、共有することができた。

○長野県障がい者福祉センター(サンアップル)において、障がいのある子を対象としたスポーツ体験教室等のイベントを実施した。障がいのある子がスポーツに親しむ機会の提供を行った。(健康福祉部)

2 課題と今後の取組方針

○モデル市町村を中心に「キッズ運動遊びどこでもゼミナール」を、希望する市町村で小学校・中学校の「体づくり運動」実技講習会を開催する。
これまで、小学校の「体づくり運動」実技講習会では「走運動」を中心に行っていたが、「投運動」も加えて実施するなど、より充実した内容となるようにしていく。

○体育(保健体育)の授業を除き、1週間の総運動時間0分の割合が増加し、運動をする子としない子の二極化が依然顕著であることや、小学校に入学する前から、「運動やスポーツが嫌い」または「運動やスポーツがやや嫌い」と回答した児童が男女とも10%を超えていることから、幼児期から運動遊びに親しみ、生活の中に取り入れて習慣化させていくため、幼児期からの運動プログラムを開発し、普及していく。

○小中高等学校体育・スポーツ研究協議会において、「教育課程編成・学習指導の基本」をもとに日々の授業改善についての啓発や1校1運動の良い取組事例等の情報提供を継続して行う。
指導主事・専門主事会議教科別部会等で、教育事務所や体育センターと取組の成果や課題について協議する。

3 スポーツ推進審議会の評定・意見

【評定】県の評価は妥当である。

○団体競技等の部活では、学校の枠を超えて活動するといった柔軟な対応が必要。
○学校以外の地域社会を巻き込んだアプローチが重要。

基本目標評価調書

基本目標	2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
------	------------------------

■ 施策の概要

5年後の目指す姿	県民誰もが、年齢、体力、技術、適性、興味・目的に応じて安全にスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向けた取組みが進んでいます
施策の展開	1 ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進 2 スポーツにおける安全の確保

■ 評価

1 施策の達成状況

(1) 測定指標の進捗状況

進捗状況	指標名	単位	基準値	H25年度		26	27	28	目標値 (H29年度)	評価
				目安値	実績値					
運動・スポーツ実施率	週1回以上実施	%	48.3 (H24実績)	51.6	51.6	54.9	58.2	61.6	65.0	順調
	週3回以上実施	%	27.9	28.3	29.0	28.7	29.1	29.5	30.0	順調
	1年に一度もしない	%	10.3	8.2	11.8	6.1	4.0	1.9	0に近づける	努力を要する
	障がい者の主なスポーツ大会、イベント、教室等の参加者数	人	14,731 (H23実績)	15,325	17,498	16,194	16,694	17,209	17,700	順調

(2) 取組の主な成果の状況(25年度実績)

<p>○県主催スポーツイベント(県民フェスティバル、スポーツ天国)の実施により、県民のスポーツ参加意識の向上を図った。</p> <p>○総合型地域スポーツクラブの育成、安定運営の支援のため、連絡協議会やクラブへの指導者派遣、アシスタントマネージャー講習会等を実施した。</p> <p>○県体育センターにおいて、幼児や高齢者の運動プログラムやスポーツ推進委員のための研修講座等を実施し、スポーツ指導者の育成を図った。</p> <p>○ホームページ「障がい者スポーツナビ」を通じて積極的に広報を行った結果、地区及び県障がい者スポーツ大会、車いすマラソン大会、障がい者スキー大会等、各種スポーツ大会には3,956人の参加があった。 長野県障がい者福祉センター(サンアップル)における、各種障がい者スポーツ教室、イベントには13,313人が、また、NPO法人長野県障がい者スポーツ協会における、障がいのある子を対象にしたプロスポーツ選手との体験教室やダンス教室等には229人がそれぞれ参加した。(健康福祉部)</p> <p>○ホームページ等の広報媒体を通じ、各種スポーツ大会や団体等の情報発信を行った。</p>

2 課題と今後の取組方針

<p>○今年度から県主催のスポーツイベントが一本化されたことに伴い、内容の精選、種目や実施時期を検討し、県民がより参加しやすく、県民のスポーツの普及に効果的なイベントとしていく。</p> <p>○スポーツボランティアの活動機会の促進のため、ボランティアとして参加できる大会やイベントの情報提供を行う。</p> <p>○地域におけるスポーツ事故、外傷、傷害の状況を把握する。</p> <p>○障がい者の自発的なスポーツ活動を促すとともに、障がい者スポーツに対する県民の理解を促進するため、積極的に障がい者スポーツを広報する。NPO法人長野県障がい者スポーツ協会等と連携し、体験教室等を実施する。(健康福祉部)</p>

3 スポーツ推進審議会の評定・意見

<p>【評定】県の評価は妥当である。</p> <p>○若い世代が、日常活動で積極的に身体運動を取り入れるよう働きかけることが必要。 ○障がい者スポーツ大会等が縮小することのないよう力を注ぐべき。</p>

基本目標評価調書

基本目標	3 住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備
------	---------------------------

■ 施策の概要

5年後の目指す姿	総合型地域スポーツクラブ、郡市体育協会、スポーツ少年団、公民館、その他スポーツクラブが、コミュニティの中心として、充実した活動を展開しています
施策の展開	1 コミュニティの中心となる地域スポーツクラブの育成・推進 2 地域のスポーツ指導者等の充実 3 地域スポーツ施設の充実 4 地域スポーツと企業・大学との連携

■ 評価

1 施策の達成状況

(1)測定指標の進捗状況

進捗状況	指標名	単位	基準値 (H24年度)	H25年度			目標値 (H29年度)	評価
				目安値	実績値			
	総合型地域スポーツクラブの加入者数	人	17,050	19,000	18,537	20,500 22,000 24,500	25,000	努力を要する

(2)取組の主な成果の状況(25年度実績)

○総合型地域スポーツクラブ育成、安定運営に向けた支援により、平成25年度新たに4つのクラブが設立し、クラブへの加入者数も増加した。

○総合型地域スポーツクラブの連絡協議会の実施により、クラブへ情報提供することができた。また、グループ毎の情報交換会等を通してクラブ同士の連携が強化された。

○長野県スポーツ推進委員協議会の研修会を実施し、スポーツ推進委員の実技指導力や地域のスポーツ活動全般のコーディネーターとしての資質の向上を図った。

○長野県障がい者スポーツ指導員養成研修事業を、NPO法人長野県障がい者スポーツ協会に委託して実施した(受講者数33人)。また、長野県障がい者福祉センター(サンアップル)において、指導者から関心のある方までを対象にした障がい者スポーツ研修会を開催した(受講者数100人)。(健康福祉部)

○文部科学省及び日本スポーツ振興センターによる補助の制度について市町村に周知し、文部科学省から2件、日本スポーツ振興センターから6件、それぞれ補助を受け施設整備を行った。

○「長野県総合型地域スポーツクラブ普及・育成・支援事業の連携・推進に関する協定」(平成25年1月30日締結)に基づき、大学と総合型スポーツクラブに情報提供を行い連携強化を図った。

2 課題と今後の取組方針

○新たな総合型クラブが設立される一方で、平成25年度は1つのクラブが廃止となった。また、クラブの財政の問題、クラブマネージャーの問題等のため、今後存続が困難なクラブが現れてきている。今後はクラブ訪問等を更に充実し、廃止クラブを未然に防ぐ方策を講じる。

○スポーツ推進委員の資質の向上を図るため、地域スポーツのコーディネーターとしての具体的な役割が理解できる研修会を実施する。

○県の推進計画については、各地区(東信・南信・飯田地区・中信・北信)の生涯スポーツ担当者会議等で周知しているところである。今後は、市町村担当者との連携を密にし、市町村の推進計画についても進捗状況等を把握し、未策定の市町村に対しては計画の早期策定を、策定済の市町村に対しては計画の着実な推進を依頼する。

○NPO法人長野県障がい者スポーツ協会等と連携し、障がい者スポーツ指導員養成研修事業を実施する。また、スポーツ推進委員に対し、障がい者スポーツに関する理解を深めてもらう取組を進める。(健康福祉部)

○文部科学省・日本スポーツ振興センターの補助制度を利用して市町村が施設整備できるよう、積極的に広報を行う。

○総合型地域スポーツクラブと大学への情報提供を密にし、連携を更に推し進める。

3 スポーツ推進審議会の評定・意見

【評定】県の評価は妥当である。

○スポーツ推進委員に対し、地域住民と行政とのコーディネーター役としての資質を高められるような研修が必要。

○総合型地域スポーツクラブの財政面の問題について、自治体の援助が必要。

基本目標評価調書

基本目標	4 競技力の向上に向けた選手強化、指導者養成の推進
------	---------------------------

■ 施策の概要

5年後の目指す姿	オリンピック・パラリンピックなど、国際舞台や国内大会で活躍する本県選手が増加しています
施策の展開	1 選手の育成強化、指導者養成による競技力向上 2 ジュニア選手特別強化の取組み 3 本県での開催が予定される全国大会に向けた選手強化

■ 評価

1 施策の達成状況

(1)測定指標の進捗状況

	指標名	単位	基準値	H25年度			目標値 (H29年度)	評価		
				目安値	実績値	26			27	28
進 捗 状 況	国民体育大会 男女総合(天皇杯)順位	位	17 (H24:67回)	17	17	17	16	16	15 (H29:72回)	順調
	国民体育大会 冬季大会順位	位	2	1	2	1	1	1	1	努力を要する
	国民体育大会 本大会順位	位	38	20位台	42	20位 台	20位 台	20位 台	20位台	努力を要する
	国民体育大会(少年)・全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会の入賞者数	人・団体	178	182	196	186	190	195	200	順調
	平昌冬季オリンピック(H30.2)でSWANからメダリスト輩出	-	-	-	-	-	-	-	-	1人以上

(2)取組の主な成果の状況(25年度実績)

<p>○ジュニア競技力向上を目的として、重点強化校・クラブを9校・13クラブ指定し選手育成を支援した結果、全国中学校体育大会で71種目、全国高等学校体育大会でも71種目の入賞を果たした。</p> <p>○SWANでは、全国中学校体育大会にメンバーから25人が参加し、優勝2つを含む延べ7人が入賞した。また、全日本スキー選手権フリースタイルモーグルで3位に入るなど活躍した。</p> <p>○新規事業であるマルチサポート事業は、事前合宿では12団体、本国体では16団体、冬季競技会では3団体、本国体全般及び冬季競技会全般でドクター・特殊技術スタッフの活用があった。</p> <p>○「第13回全国障害者スポーツ大会(スポーツ祭東京2013)」に長野県選手団として86人(選手52人、役員34人)を派遣した。(健康福祉部)</p>

2 課題と今後の取組方針

<p>○東京オリンピックに出場できる可能性のある有望選手・競技団体に対して支援を行う、「オリンピック育成支援事業」を実施する。指定選手の活躍により本県の夏季競技における競技力向上及び底辺の拡大を図る。また、パラリンピック等国際大会で活躍できる選手についても、発掘・支援を行う。(一部健康福祉部)</p> <p>○中学卒業までを対象とするSWANプロジェクト終了後の強化支援の方策を検討する。</p>

3 スポーツ推進審議会の評定・意見

<p>【評定】県の評価は妥当である。</p> <p>○開催を要請された平成28年度の冬季国体の実現に向けて、県として努力をしてもらいたい。</p>

基本目標評価調書

基本目標	5 スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進
------	---

■ 施策の概要

5年後の目指す姿	選手が県内を拠点に活躍するとともに、引退後も指導に携わるなどの好循環が創出されています
施策の展開	1 トップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進 2 地域スポーツと企業・大学との連携

■ 評価

1 施策の達成状況

取組の主な成果の状況(25年度実績)

<p>○有望な選手が在籍する県内の企業・学校に訪問し、選手の競技活動のための環境整備について要請した。</p> <p>○「長野県広域スポーツセンター指導者派遣事業」において、総合型スポーツクラブの活動の充実と活性化を図るため、元オリンピック等トップアスリートを県内の総合型クラブへ派遣した(3名)。 ※3名(敬称略):石川和義(三段跳び)、酒井浩文(競歩)、野口京子(バレーボール)</p>
【進捗度】 努力を要する

2 課題と今後の取組方針

<p>○スポーツ界における好循環創出の方策を検討する「地域検討会議」を設置し、トップスポーツ選手を受け入れている企業・団体の実態、現役引退後の選手を受け入れている企業・団体の実態等について調査するとともに、長野県としての支援策について検討を行う。</p> <p>○本県出身選手は、競技生活を続けるため、支援の充実している県外へ流出している状況であり、その対策が急務であるため、国の就職支援制度「アスナビ」(双方向型マッチングシステム)の長野県版の構築について検討する。</p> <p>○本県出身選手の県内企業への就職について、関係団体等と検討を行う。</p> <p>○選手の立場から、雇用形態(一社雇用、複数社との競技活動資金支援契約、派遣社員契約等)や勤務条件(年次休暇等)についての研究を行う。</p>

3 スポーツ推進審議会の評価・意見

【評価】県の評価は妥当である。
<p>○スポーツ選手の就職について、ハローワーク等、様々な行政機関と意識を共有し進めるべき。</p> <p>○企業と協調関係、協力関係を構築し、選手の勤め先の開拓に努めてもらいたい。</p>

基本目標評価調書

基本目標	6 多面にわたるスポーツの果たす役割の活用
------	-----------------------

■ 施策の概要

5年後の目指す姿	スポーツの有する多面的な価値が県民の間で共有され、健康づくりや県内外の交流促進など、スポーツが「元気な信州づくり」を牽引しています
施策の展開	1 スポーツによる地域の一体感や活力の醸成 2 県内のスポーツ資源を活用した交流の促進と地域の活性化 3 スポーツを通じた健康で活力に満ちた健康長寿社会の実現

■ 評価

1 施策の達成状況

取組の主な成果の状況(25年度実績)

<p>○県ホームページを活用し、ソチオリンピック・パラリンピックに出場した本県関係選手の活躍の様子を日々更新したほか、新たにフェイスブックを立ち上げ、スポーツに関する多彩な情報を発信できるようにした。</p> <p>○県とプロスポーツチームとの連携事業を「包括連携協定」に基づき、人権啓発や献血啓発など11のテーマ(分野)で幅広く展開した。</p> <p>○スポーツ合宿について、誘致推進員を県東京観光情報センターに1名配置し、年間延べ400社以上の誘致営業活動を行い、約3,000人・泊の誘致につなげた。また、スキープロモーションにおいて、県内全小学生にスキーリフト優待券付きパンフレットを配布するとともに、「信州“Family Style”」を各種媒体を通じてPRするなどの活動を行った。(観光部)</p> <p>○青壮年期におけるメタボリックシンドローム等の予防や高齢期におけるロコモティブシンドローム等の予防にも配慮し、長野県版身体活動ガイドライン(ずくだすガイド)を作成し、県内4か所での研修会や県ホームページへの掲載を通じて、普及啓発に努めた。また、県ホームページにおけるウォーキングコース(22市町村、134コース)等の紹介を行った。(健康福祉部)</p>
【進捗度】 概ね順調

2 課題と今後の取組方針

<p>○全国的スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興など、スポーツで地域が元気になるような取組を進めるとともに、県民に元気と活力を与えてくれる本県関係選手の活躍の様子等については、引き続き積極的な情報発信を行っていく。</p> <p>○県内でのスポーツ合宿に対して、スポーツ合宿誘致推進員による誘致営業活動を行っていく。(観光部)</p> <p>○子どもたちとその家族に向けたプロモーションを通じて、「信州“Family Style”」を進め、家族でのスキー場への来場を促進していく。(観光部)</p> <p>○高齢者を含めた県民への運動習慣の定着を図るため、長野県版身体活動ガイドライン(ずくだすガイド)を活用しながら、県内市町村において運動支援ボランティアの養成が独自にできるよう養成講座のテキストを作成する。(健康福祉部)</p> <p>○ウォーキングイベントや健康コンテスト等、市町村や企業の健康づくりの取組を収集し、県ホームページ等で発信、普及していく。(健康福祉部)</p>

3 スポーツ推進審議会の評定・意見

<p>【評定】県の評価は妥当である。</p> <p>○全庁的に協力して、スポーツの持つ力を最大限に発揮できるよう努力すべき。</p> <p>○若い世代に対し、フリーペーパー等とも連携した情報発信を検討したらどうか。</p> <p>○長野でしかできない特色を出すために、冬季のスポーツに取り組むことが大切。</p>
--